

イネ科ミノゴメ属

カズノコグサ (数の子草)

Beckmannia syzigachne (Steud.) Fernald

自生環境

水田、湿地、河川敷など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



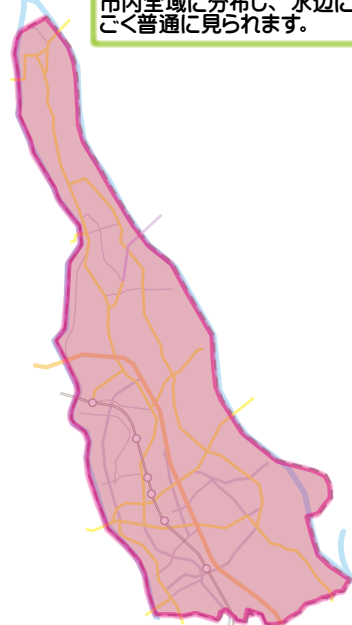
今のところ普通種ですが、場所柄農薬の影響を受けやすい傾向があります。また稲刈りの後、次の田起こしまでの間の水田管理方法が変わると、影響を受ける可能性があります。

特徴

- ☆ 水田や川岸など、湿った場所にごく普通に生える越年草です。稲刈り後から田起こし前の水田で、タネツケバナやノミノフスマ、スズメノテッポウなどとともに関群落をつくります。
- ☆ 水田内に生えるものは比較的小型のものが多く見られます。そして「お米づくり」の曆に適應するように育ち、田植えまでにはタネを作り終えます。一方湿地や川岸などでは、5~7月頃まで穂が見られ、より大型に育つ傾向があります。
- ☆ 穂を構成するひとつひとつの小穂は平べったく、外側はぷっくりと膨らんだ2枚の苞穎に包まれています。小穂は成熟すると黄色っぽくなり、遠くから見る目とまるで数の子のように見えます。名前の由来はここからきています。

市内の分布状況

市内全域に分布し、水辺にごく普通に見られます。



昔はミノゴメと呼ばれた

江戸時代の本草学者小野蘭山が、本種をミノゴメと呼んだこともあり、かつてはミノゴメの名で呼ばれていたこともありましたが。ただミノゴメと言う名前は、ムツオレグサ(イネ科ドジョウツナギ属)という別な植物にも使われるため、紛らわしいということで牧野富太郎博士がカズノコグサという名前を提唱しました。現在は、カズノコグサの名前が標準和名として使われています。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

